

## 第1回調査・研究企画調整会議研究運営部会 議事概要

(注：本会議は個別具体の研究者や研究課題名に言及した議論が行われることから、非公開で行った。

本会議概要についても、それらが特定されない形での公表とする。)

1 日時：平成23年1月20日(木) 16:15～17:40

2 場所：食品安全委員会22階中会議室

3 出席者(7名)五十音順

圓藤 陽子(独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院  
勤労者医療総合センター・産業中毒センター長)

及川 眞一(日本医科大学内科学内分泌代謝部門教授)

熊谷 進(食品安全委員会委員長代理)

小泉 直子(食品安全委員会委員長)

佐々木珠美(日本生活協同組合連合会食の安全担当テクニカルアドバイザー)

長尾 拓(食品安全委員会委員)

◎廣瀬 雅雄(食品安全委員会委員)

(◎：座長)

4 欠席者(1名)

品川 邦汎(岩手大学特任教授)

5 議題

(1)平成23年度研究の対象領域候補について

(2)その他

5 議事

(1)平成23年度研究の対象領域候補について

○事務局から対象領域のたたき台の作成経緯について説明

- ・「食品の安全性の確保のための調査研究の推進の方向性について」(平成22年12月16日食品安全委員会決定)をもとに事務局が作成したたたき台を基に、必要に応じて詳細な箇所を加筆・修正した。

○化学物質関連分野を検討した際の主な意見

- ・化学物質関連分野は毎年応募が多く、研究者の層も厚いと思われる。ある程度、具体的に物質名をキーワードとしたほうが、応募が絞れるのではないか。
- ・化学物質関連分野の項目を一つにするとすれば、キーワードはある程度残してもいいのでは。

○生物学関連分野を検討した際の主な意見

- ・昨年は、全体のうち生物学分野の応募が少なかったため、生物学分野は広めに募集すべき。

- ・リスク管理機関が実施している研究課題や調査事業の課題と違いをだすべき。

○新しい評価手法の開発に関する分野を検討した際の主な意見

- ・遺伝子改変モデルの項目はある程度キーワードを絞るべき。
- ・ハイリスクグループは化学物質関連分野の「胎児期・発達期」と類似するため、項目自体を外してもよいのでは。

○自ら評価や新たなハザードへの対応、緊急時対応等に必要な分野を検討した際の主な意見

- ・自ら評価案件は、今年度のものでないといけないのか。過去の案件ではどうか。
- ・募集が1月末からだすると、今年度の自ら評価案件はまだ決定していないため、昨年案件にしてはどうか。

以上の調査審議結果について調査・研究企画調整会議に報告することとなった。

以上。